

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00764

研究課題名(和文) コンピテンシー育成のための留学生を活かした中国語教育プログラムと評価の開発

研究課題名(英文) Development of Chinese Language Education Program and Evaluation Utilizing International Students for Competency Development

研究代表者

寺西 光輝 (TERANISHI, Mitsuteru)

鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・講師

研究者番号：90782467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大学における初修(第二)外国語としての中国語教育のあり方を、言語知識の習得のみならず“21世紀型コンピテンシーの育成”という観点からとらえ直し、学習過程における《留学生との交流や協働》を前提とし、それを《教材》《パフォーマンス評価》とリンクさせた、新しい中国語教育と評価に関するモデルの開発を行った。

研究期間を通して、CEFRの「行動中心アプローチ」および「複言語主義」の理念に基づく教材および学習ポートフォリオ・評価基準の開発に取り組むとともに、学習をどのように教室外の留学生の存在に結びつけるかについて分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、わが国の外国語教育の分野では、CEFRの理念および、第二言語習得研究の成果に基づく教育内容や教授法、評価方法等の開発・研究が活発になっている。一方で中国語教育の分野では、依然として文法シラバスに基づく伝統的な教育が中心である。

本研究では、CEFRの「行動中心アプローチ」および「複言語主義」の立場から、第二外国語としての中国語教育において育成すべき「コンピテンシー」について検討した。また、学生を取り巻く多文化環境をいかに学習過程や評価に取り入れるべきかという観点から、新しい中国語教育のあり方について検討し、論文および教科書の作成を通してその一端を示すことができた。

研究成果の概要(英文)： This study reexamined Chinese language education as a second foreign language at universities from the perspective of language knowledge acquisition and “cultivating 21st century competencies.” A new model of Chinese language education and evaluation was developed on the premise of “interaction and collaboration with foreign students” in the learning process, which was linked with “teaching materials” and “performance evaluations.”

During the study, we developed teaching materials, learning portfolios and assessment criteria based on the CEFR principles of “action-oriented approach” and “plurilingualism”; moreover, we analyzed the linking of learning with the interaction with foreign students outside the classroom.

研究分野：中国語教育

キーワード：コンピテンシー 留学生 CEFR 複言語能力 パフォーマンス課題 Can-do

1. 研究開始当初の背景

「知識基盤社会」や「グローバル社会」の到来を背景に、「コンピテンシー」の育成に向けた試みが世界的な教育改革の流れとなり、わが国の大学においても汎用的能力の育成のためのアクティブ・ラーニングの導入や、「学士力」の育成が分野を問わず求められるようになった(中央教育審議会 2008、2012)。

同時に、「単位制度の実質化」や「質保証」の名の下、授業外学修時間の確保とともに、カリキュラム・ポリシーに基づいた達成目標や学習内容・水準の策定、国際的な通用性をもった単位の認定などの対応が迫られている。また、これにともなって客観テストによる総括的評価のみではなく、形成的評価や、ルーブリック等を通じた高次の能力の評価も課題となっている。

こうした教育改革の大きな流れの中で、近年縮小傾向にある初修外国語(第二外国語)教育が、高等教育機関における存在意義や立ち位置を失わないためには、言語習得の立場からの研究およびシラバスの構築のみならず、グローバル社会に求められる 21 世紀型の能力や資質の育成に、いかに貢献できるかを明確に示していく必要がでてきたと言える。

本研究は、こうした社会構造の変化と、大学教育の転換、さらには留学生の増加という文脈の中で従来の外国語教授法を見直し、HSK(漢語水平考試)および CEFR などの指標、社会的構成主義の学習論等を踏まえつつも、松下(2015)の提唱する「ディープ・アクティブラーニング」等の教育方法論や、ウィギンズら(2012)の提唱する「逆向き設計」論、あるいは「21 世紀型スキル」「キー・コンピテンシー」「学士力」などの新しい能力観などを基盤として、新しい中国語教育モデルの構築を試みたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学における初修(第二)外国語としての中国語教育のあり方を、言語習得のみならず“21 世紀に求められる能力の育成”という点からとらえ直し、学習過程における《留学生との交渉・協働》を前提として、それを《教材》《パフォーマンス評価》とリンクさせた、新しい中国語教育モデルの開発を行うものである。

そのために、教材に基づく知識・技能の育成を基盤としつつも、それを教室外の留学生との協働活動とリンクさせ、より現実に近い状況の中でそれを発揮できる環境をキャンパス内に整備することで自立的・主体的学修を促すとともに、多文化共生社会において発揮できる能力や資質の育成を見据えた新しい学習プログラムと評価の枠組みを開発することを目指した。

3. 研究の方法

(1) 到達目標および理論的枠組みの設定と教材化

21 世紀のグローバル社会・多文化共生社会において、中国語を専門として学ぶわけではない日本人学生が、中国語母語話者と協調したり、よりよい関係を築いたりするために、どのような能力の育成に取り組むべきかを、コンピテンシーと教科内容の両面から考察した。

コンピテンシーの面では、「新しい能力」観に関する文献調査を行いつつ、わが国の教養とし

での中国語教育で育成すべき能力や資質とは何かの理論的枠組みを検証した。また、教科内容の面では、学習者の置かれた社会文化的環境に加え、HSK、CEFR等の指標を参照しながら、グローバル化・多文化化するわが国の状況に適したA1、A2レベルのCan-doを開発し、それを教材化した。

(2) 各種タスクおよびパフォーマンス課題の開発と検証

大学内の多文化環境を活かし、教室内で習得した知識や技術を、より現実に近い形で発揮させるような中国語教育を実現するため、学習や学生生活をキャンパス内の留学生と結びつける教育プログラムを開発した。

具体的には、留学生チューターを想定した「Can-doリスト+チェックシート」等のタスクシート、留学生との交流を想定した「パフォーマンス課題」、さらに「振り返り+自己評価シート」等を開発した。また、提出資料やアンケートによるデータを収集し、学習効果や異文化接触に伴う問題・摩擦を検証した。

(3) 学修成果の評価方法・基準の策定

目標に準拠した評価を実現させるため、上記タスクやパフォーマンス課題の資料を収集した上で、ウィギンズら(2012)、西岡(2016)等を参照しつつ、客観テストで計ることのできない成果を評価するための、中国語教育版のルーブリックを作成し、またそれを成績評価に組み込むための仕組みを開発した。

さらに、LMS(manaba)のポートフォリオ機能を活用し、身につけた能力や成長の過程を可視化しつつ、各クラスが同じ基準で評価することで、質保証を行う仕組みを構築した。

4. 研究成果

(1) 実践の基盤となる教材として、CEFR A1レベルに相当し「行動中心アプローチ」に基づく中国語教科書を出版した。同時にヨーロッパ言語ポートフォリオ(ELP)を参照しつつ、言語学習や、中国語圏の人との交流や文化的体験を記録し、それを評価するための「中国語ポートフォリオ」を付属教材として刊行した。また教科書には、客観テスト等では測りにくいコンピテンシーを可視化し評価するために、パフォーマンス課題およびルーブリックを掲載した。

(2) 論文「中国語話者との交流を取り入れた初級中国語教育」を発表した。本論文は、「コンピテンシー」育成の観点から、「複言語能力(plurilingual competence)」の育成を目指した実践を、初修/第二外国語としての中国語教育に取り入れる可能性について論じたものである。

初修外国語として週2回中国語を学ぶ1年前期の学生を対象に実施した、香港および台湾の大学生との交流会について、学生の作成した資料および質問紙調査に基づき分析した。とりわけ交流時に用いたコミュニケーション・ストラテジーに焦点をあてて分析した結果、CEFRの「行動中心アプローチ」に基づき、学習者を「社会的行為者」と見なす場合、初修外国語として中国語を学習する入門・初級レベルの学習者にとっては、社会文化的知識とともに、異文化接触場面でいかにして「英語」「やさしい日本語」「身振り」「スマートフォン」「筆談」などの手段を切り替えてコミュニケーションを遂行できるかといった「複言語能力」が重要であることが明らかになった。本研究から、「コンピテンシー」の育成を見据えた今後の初修外国語としての中国語教育のあり方について、新たな指標を得ることができた。

(3) 当初想定していた学内の中国語学習者と中国語圏の留学生との交流活動については、COVID-19 の影響で研究期間中の活動が制限されたため、大きく進展させることができなかった。その代わりに、オンラインで「中国語ラウンジ」を開催するとともに、オンライン交流を想定した各種データを収集し、それを Can-do および教材開発につなげることができた。とりわけ CEFR-CV において示されたような、「オンラインでのやりとり」(Online Interaction) に関する内容を含む、A1-A2 レベルの教材を開発し、出版できたことが大きな成果であったと言える。本教科書の出版に当たっては、同時に「中国語ポートフォリオ2」を付属教材として発行することができた。

以上のことから、本研究は COVID-19 の影響で大きな計画変更を余儀なくされたものの、当初の研究目的であった、「学習過程における《留学生との交渉・協働》を前提として、それを《教材》《パフォーマンス評価》とリンクさせた、新しい中国語教育モデルを開発する」という点において、一定の成果を出すことができたと考えられる。

【参考文献】

中央教育審議会(2008)「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm(2023年4月21日閲覧)

中央教育審議会(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm(2023年4月21日閲覧)

松下佳代(2015)『ディープ・アクティブラーニング - 大学授業を深化させるために』勁草書房

溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

西岡加名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計 - パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化

ウィギンズ, G.、マクタイ, J. (2012)『理解をもたらすカリキュラム設計 - 「逆向き設計」の理論と方法』(西岡加名恵訳) 日本標準

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 寺西光輝 | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 中国語話者との交流を取り入れた初級中国語教育 「複言語能力」育成の観点から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 VERBA 鹿児島大学言語文化論集 | 6. 最初と最後の頁 43-58 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 寺西光輝 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 朝日出版社 | 5. 総ページ数 152 |
| 3. 書名 使って学ぶ！中国語コミュニケーション2 CEFR A1-A2レベル | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 寺西光輝 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 朝日出版 | 5. 総ページ数 136 |
| 3. 書名 使って学ぶ！中国語コミュニケーション - CEFR A1レベル | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1レベル 自律学習支援HP
<https://sites.google.com/view/sixi/>
使って学ぶ！中国語コミュニケーション2 CEFR A1-A2レベル 自律学習支援HP
<https://sites.google.com/view/tukatate2/>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|